

令和6年3月

世田谷区立芦花中学校
校長 井尻 郁夫様

学校関係者評価委員会

令和5年度 世田谷区立芦花中学校 学校関係者評価 報告書

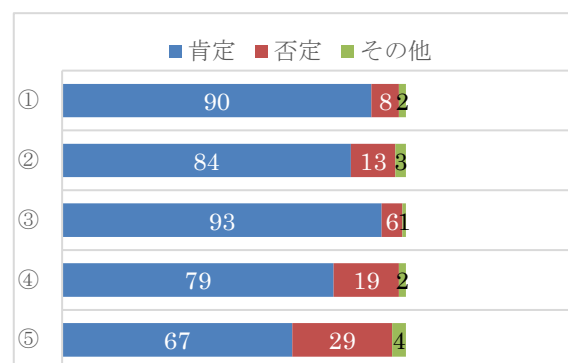
I 重点目標の成果と課題

《 重点目標 》

- 問題の解決に向けた学びへの意欲をもち、計画的に追究し、筋道を立て考え、表現する力を育成する。
- 向上心をもって、主体的に取り組み、自己の理解を深めながら、自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、多様な個性や自他を尊重し互いに認め合いながら、人間関係を形成する力を育成する。
- 健全な生活習慣を身に付け、健康で安全に生活するとともに、創意工夫しながら、ものごとを最後までやり抜く力を育成する。

1 「学びへの意欲、表現力の育成」について 関連する評価項目(生徒評価)

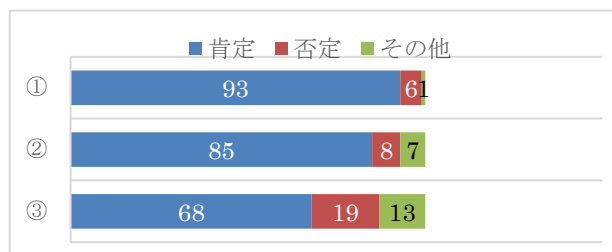
①	先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。
②	あなたは、話し合い等で自分の考えを自分の言葉できちんと伝えることができますか。
③	授業では考えたり話合ったり、発表しあったりする機会がある。
④	あなたは、学習面での課題について、自ら計画的に追求したり、筋道を立てて考えたりして解決していますか。
⑤	私は、家庭で宿題や e ラーニングなどで学習をしている。



質問①～③の結果から、タブレットをはじめとする ICT 機器の活用が充実期に入り、考えを深める活動及び、対話的な活動がより活発に行われていることがわかります。これは先生方の日々の授業改善に向かう姿勢が結実していることの表れであると捉えることができます。質問④⑤は生徒の学習への取組に向かう姿勢を表しています。自身の学習への取組について、肯定的な評価はそれほど高くありません。学習の目的を自分の中で明確化できておらず、授業で学んだり取り組んだりしたことを定着させるところまで至っていないことが考えられます。また、家庭学習についても否定的評価が比較的高くなっています。自ら学ぼうとする姿勢の育成、家庭学習への取組ませ方や工夫が今後の課題となります。新たな学びが確実に進められている中で、今後の更なる成長を期待いたします。

2 「生徒の自立や自分らしさづくり、他を思いやることなど」について 関連する評価項目(生徒評価)

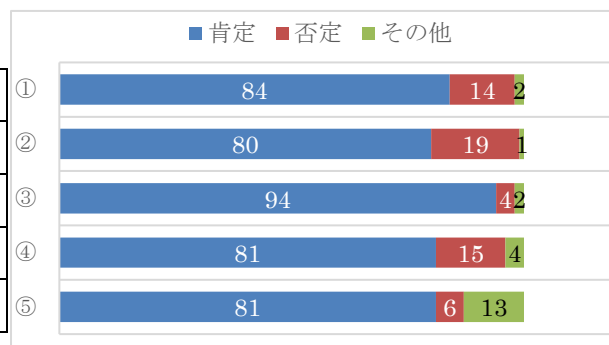
①	私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。
②	あなたは、自他を尊重し互いに認め合いながら、人間関係を築いていますか。
③	あなたは、自分がみんなの役にたっていると実感したことがありますか。



質問①から生徒たちは学校生活について、過ごし方やルールについてしっかりと考えられていることがわかります。9割以上の生徒が考えて行動しているという結果は大変良い傾向であり、落ち着いた学校生活を過ごすことができていることがうかがえます。また、8割以上の生徒が、他者と良好な関わり合いができていることも望ましい結果です。一方、自分が他の役に立っているかという点での肯定的評価が高くありません。活躍する機会、褒める機会をより増やすなど、生徒の自己肯定感を育むような取組やご指導をお願いいたします。

3 「健康で安全な生活と最後までやり抜く力」について 関連する評価項目(生徒評価)

①	あなたは、規則正しい生活習慣を身に付け、健康で安全に生活していますか。
②	私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。
③	学校行事は、達成感がある。
④	学校生活は、達成感がある。
⑤	部活動は、達成感がある。



今年度は感染症対策が解除され、少しずつ通常の教育活動を取り戻すことができているように感じます。行事等の運営に関しても以前と同様の形式で行われており、生徒の体力向上の機会や行事への取り組みが充実しています。特に行事における達成感是非常に高い数値となり、その教育的効果の高さ、有用性を表しています。質問①から質問⑤の肯定的な評価はおおよそ8割に達しています。一方で、健康的な生活や学校生活における達成感などで否定的な評価も一定数あることも注視する必要があります。学校生活全般や生徒の体力向上についての対策に期待いたします。

II 学校関係者等評価アンケート結果について

各項目について、項目内で△肯定的評価(A, B)の高かった項目、▼否定的評価(C, D)の高かった項目を示しました。

〈学習指導について〉

		割合	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	96.5	先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。
	保護者	80.1	本校では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	9.4	先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。
	保護者	15.8	本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。

授業における、ICT機器の活用や、学び合いの場、協働して学習を進めていく学習指導について生徒も保護者も肯定的に捉えていることがわかります。引き続きご指導をお願いいたします。一方で、提出物やテストの評価の仕方、板書やプリントの内容や表記を分かりやすいものにしていくことに関しては、今後検討の余地があるようです。各教科において、引き続き生徒一人ひとりの学習状況を踏まえながら、授業改善に取り組んでください。

〈生活指導について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	94.1	私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。
	保護者	77.0	本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	3.6	先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。
	保護者	14.0	本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。

ほとんどの生徒が学校での過ごし方やルールについて考え、落ち着いた学校生活を送れていると捉えることができます。「生徒に考えさせる指導」に関しても、夏の服装の話し合いなど生徒に考えさせる機会を増やしたことで、昨年度に比べ、否定的な数値が大幅に低くなりました。今後も学校での過ごし方やルールについて考えたり、行動したりする機会を継続してもてるよう、ご指導をお願いします。

〈学校行事について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	97.7	学校行事は達成感がある。
	保護者	87.8	学校行事は、子どもにとって楽しい。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	5.9	先生は、生徒の意欲を大切にしている。
	保護者	13.6	本校は、子どもの意欲を大切にしている。

学校行事に関しての肯定的な数値が非常に高い結果でした。行事の実施方法において、できる限りコロナ以前に近い形式にし、生徒同士の関わり合う機会を増やしたことが一つの大きな要因であると考えられます。一方で、生徒の「意欲」について特に保護者から否定的な評価が見られました。生徒の自主的な活動、自主性を尊重した取り組み方を工夫することで、この結果も改善されるのではないのでしょうか。今後の取り組みに期待いたします。

〈キャリア教育について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	80.0	自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。
	保護者	63.8	本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	24.8	私は、キャリアパスポートに書いた目標について、考えて行動している。
	保護者	20.3	本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。

授業において進路や将来のことについて学習する機会をもつことができたようです。特に1年生のボランティア活動や2年生の職場体験、プロジョブトークなど、対面的な活動ができたことは生徒にとって貴重な学びの場となったのではないのでしょうか。キャリアパスポートの活用や進学指導に関する情報提供については今後改善の余地があります。

〈部活動について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	81.7	部活動は、楽しい。
	保護者	74.2	部活動は、子どもにとって楽しい。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	6.5	部活動は、達成感がある。
	保護者	14.5	部活動は、子供にとって楽しい。

生徒の部活動に対する肯定的な評価は8割を超えており意欲的に活動している様子がうかがえます。また、保護者も部活動に関して肯定的な見方をしています。一方で、おおよそ1割以上の生徒及び保護者は否定的な評価をしていることに注視しながら、引き続きご指導ください。

〈先生(教職員)について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	89.5	先生たちは、生徒にいていねいに指導している。
	保護者	78.3	本校は、丁寧に指導している。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	21.6	先生たちは、生徒が相談しやすい。
	保護者	21.7	本校は、子どもや保護者が相談しやすい。

総体的に先生方は生徒にいていねいに指導していることがわかります。あらためて先生方の日々のご指導に感謝いたします。同時に、「相談のしやすさ」については2割以上の生徒及び保護者が否定的な評価を出しています。指導のていねいさはあるものの、相談することまでには至らない状況のようです。継続的な日常の声掛けや、話しやすい環境、場面、時間を意識的に整備することなどで状況は改善されるのではないかと。生徒一人ひとりの実態を踏まえながら、ご検討ください。

〈学校運営について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	64.2	本校は、保護者に指導の重点を伝えている。
	地域	89.6	学校の重点目標が明確である。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	21.7	本校は、保護者に指導の重点を伝えている。
	地域	10.3	地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。

学校では指導の重点について、保護者会や行事などの機会に伝えてはいるが、特に保護者への定着については十分とは言えない状況であるようです。同時に、保護者も地域も共に「わからない」の回答を減らしていくことが重要です。今後、行事等で学校に足を運ぶ機会が増えていくことが期待できます。その場面を効果的に活用されるなど、アナウンスに工夫されることが必要です。

〈広報活動・情報提供について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	78.7	本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。
	地域	96.5	学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	30.8	「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている。
	地域	17.2	「学び舎」の活動について、情報が提供されている。

学校からの情報提供については、保護者・地域とも肯定的な評価が得られたようです。日常的に行っている学校だよりの配布やホームページの更新の成果が表れたと考えられます。学校からの配布物の一部を、今後データで配信することを進めていくなど工夫することによって、さらに肯定的な評価を得られるかもしれません。一方、「学び舎」に関する情報については、十分とは言えない状況です。引き続き工夫改善をお願いします。

〈地域との連携について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	59.7	本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている。
	地域	65.5	地域の人や施設を教育活動に活かしている。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	14.1	本校は、地域に情報を提供している。
	地域	24.1	学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。

生徒が地域活動に参加する機会も増え、活躍する姿も多く見受けられましたが、肯定的な数値は高くありません。今後、さらに地域人材や施設の活用をしていただき、学校と地域の連携を図ることを期待いたします。

〈学校の安全性について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	86.4	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。
	地域	100	本校は、安心・安全な学校づくりを進めている。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	10.9	本校は、安心・安全な学校づくりを進めている。
	地域	10.3	本校は、安全性を高めようと地域と協力している。

学校における安全指導については、保護者・地域からも肯定的な評価で8割以上の高い理解を得られています。避難訓練やセーフティ教室の他、避難所運営訓練も実施し、本校の生徒も参加しました。安全に対する意識の向上がなされた結果ではないでしょうか。学校の施設面では一部老朽化が進み、不具合が起きている箇所が散見しています。万一来備え、区の協力を得ながら改善に努めてください。また、給食時の誤飲事故防止に向けて、落ち着いて食べられるような時間の確保にも取り組んでいただくことを期待いたします。

〈学校全般について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	92. 2	学校生活は、楽しい。
	保護者	81. 9	本校の教育活動は、子どもの成長につながる。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	50. 0	「学び舎」の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。
	保護者	38. 9	子どもは、家庭で宿題や e ラーニングなどで学習している。

生徒・保護者とも8割以上の肯定的な評価が得られています。生徒は楽しく学校を送り、保護者は本校での教育活動が子どもの成長につながっていると感じています。これは日々の教職員の努力と保護者の協力があってこそです。また、課題があることも視野に入れながらも次年度以降も充実した教育活動を期待いたします。

Ⅲ まとめ

今回のアンケートは、昨年度に引き続き、Web での回答でした。回答率が懸念されましたが、保護者、地域からは7割を超す回答結果が得られました。ここにも本校に寄せる期待や想いを感じ取ることができます。引き続き、本校の教育活動に、興味をもっていただき、思いを届けていただくことを期待します。

アンケートの結果から読み取れることは、本校の教育活動は、全体的に生徒は楽しく学校生活を送り、保護者も理解を示しているということです。特に昨年度まで、感染症対策により我慢を強いられてきた「行事」に関しては、生徒だけでなく、保護者や地域の期待を感じます。生徒の成長と活躍が間近で見られる貴重な機会として、今後、さらに充実させ、より活気の溢れる学校にさせていただくことを期待します。

家庭での学習について、タブレットを使ったものが主流になってきているようですが、保護者から見ると、具体的にどのような学習に取り組んでいるのかがわかりづらいという特徴があるようです。今後、さらに ICT 機器の活用が促進されることが予想されますが、「個に応じた学習の見える可」の観点も大切に、一つ一つていねいに取り組んでいただきたいと思います。これは、学校と家庭・地域が上手に連携し合うことが重要となります。

生徒一人ひとりが充実した生活を送ることができるよう協力体制を整えることを期待します。